

科目名		担当教員	
精神疾患とその治療Ⅱ		高野 毅久	
科目コード	単位数	履修方法	配当年次
CQ4167	2	R	3年以上
履修登録条件	「精神疾患とその治療Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。		



科目の概要

■科目の内容

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

■到達目標

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

■科目評価基準

レポート評価 60%+科目修了試験 40%

■教科書・参考図書

【教科書】（「精神疾患とその治療Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕1 精神医学と精神医療』中央法規出版、2021年

（最近の教科書変更時期）2023年4月

※「精神疾患とその治療Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

【参考図書】

「精神疾患とその治療Ⅰ」の項をご参照ください。

■レポート課題

1 単位め	統合失調症、気分障害、認知症におけるそれぞれの病型、症状、経過、予後、検査、治療について、診察の手順を踏まえながら論述せよ。
2 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

精神疾患の原因は、その大半が未だ不明です。また、原因がわかっていると考えられる認知症でも、脳の障害から精神症状のすべてを説明することは出来ません。このような疾患に対して、精神医学は、身体医学とはちがった独特の診断法として、外因／内因／心因といった分類を考え、診断に外因性⇒内因性⇒心因性という順序＝構造を与えました。ICD や DSM といった現行の操作的診断法は、この構造を廃して、すべての精神障害を一覧表のごとく同一平面上に並べましたが、操作的診断法を把握し実施するのにも、従来診断法は有用です。直接的には、教科書の第 1 章、第 2 章に書かれていますが、実際に自分が、ひとりの患者さんを目の前にしている場面を想定し、統合失調症、気分障害、認知症についてまとめてみることで、知識が立体化し、診断から治療やリハビリテーションの方向性まで、一貫したパースペクティブで見えてくると思います。

【2 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

科目修了試験

■評価基準

「精神疾患とその治療 I」の項をご参照ください